

# 山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

## 【富士見温泉】

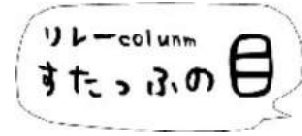


豊富な塩分やカルシウムを含んだ泉質や、関東平野を一望できる露天風呂の夜景は富士見温泉の特長として有名ですが、アットホームな雰囲気もまた魅力の一つです。

祖父と孫が数をかぞえて湯につかっていたり、偶然居合わせたさまざまな世代の人達が、趣味の話、仕事や家庭の愚痴などのよもやま話に花を咲かせていたりといった光景をよく目にします。富士見地域の人達の憩いの場として大きな役割を果たしています。私も先日、「帰ったら一杯やるんかい」と話しかけられ、地域の一員として受け入れられた気がして心までほっこりしました。

おすすめは水風呂。全国的にも珍しい10℃以下の水温に設定されており、温泉やサウナと交互に入浴すると疲労回復に効果抜群です（※水風呂に入浴の際は体調にご注意ください）。（文：岡）

- 住所：〒371-0105 群馬県前橋市富士見町石井1569-1 道の駅「ふじみ」内
- TEL:027-230-5555
- 所要時間：交流の家から車で10分
- ホームページ：<http://www.michi-fujimi.com/>



## 『裾野は長し赤城山』

文：田中 教允



私は群馬県外出身者で、群馬に来てビックリしたことの1つに「上毛かるた」があります。皆さんは、上毛かるたを知っていますか？ 県外の方は、知らない人が多いと思いますが、県内の方は、すべての人が知っているのではないかと思います。しかも、読み札を暗記しているから凄いです。上毛かるたは、子どもたちに群馬の歴史、文化を伝えたいという趣旨から、



群馬県の人物、地理、風物などが幅広く読まれています。そのため、群馬県人は郷土愛が強いのではないかと感じています。そして、そんな郷土愛溢れる方々に囲まれている自分も影響され、少しずつ覚え始めていくところです。

交流の家では、利用団体が交流する場面があります。ぜひ県内の方は、群馬の良いところを伝え、県外の方はそれに興味を持っていただけると良いなあと思います。

赤城山も上毛かるたに詠まれています。「裾野は長し赤城山」ぜひ、赤城山にお越しください。

会計専門職として、交流の家を支えている田中さん。主に事務室にいらしゃいます。タイミングが合えば、上毛かるたと一緒に遊んでくれるかも！

# つぶやき田

## 【テーマ：私の好きな植物】

- 日本の国花「桜」。平安時代から桜とともに生きてきた日本人。1000年間も気持ちが繋がっている桜は特別な花です。(小倉)
- 水芭蕉が好きです。群馬といえば尾瀬。尾瀬といえば水芭蕉なので。もちろん尾瀬も大好きです。(田村)
- 好きな植物は桜です。花が咲く暖かい時期に、人が少ない穴場に見に行くと心が落ち着きます。(池守)
- お気に入り、アカヤシオだ。春先登山で全山が枯れ木の中、鮮やかな淡い紅色の花に出会うと心がぱっと明るくなる。(笛木)
- 「ポトス」ゆっくりですが背を伸ばし、あざやかな緑が気持ちをなごませてくれます。(鈴木)
- 楓。紅く染まった様子もいいけど、赤城で扱ったクラブで知ったくるくる回りながら種が落ちる様子も綺麗だから。(田中)
- 秋ならば金木犀の花が咲くのが楽しみです。青空に空気いっぱいの良い香り。トイレの芳香剤ではありません！（手島）
- 秋は、コスモスでしょう。山口百恵世代ですからねえ。薄紅の秋桜ですね。(杉浦)
- Picassoですかね。バラってたくさん種類があるのねって、驚いたと同時に買ったものだから(笑)。(丸山)
- どこからともなく 香る甘い匂いの金木犀。ついつい姿を探したくなります。花びらがとっても可愛らしく、気付けば、同じような写真をたくさん撮っています。(渡邊)
- 食べられる植物が好きなので紫蘇。その辺に簡単に生えるにも関わらず梅干しや素麺の具や刺身の添え物など様々な活用法があるので。(森田)
- 好きな植物はバラです。花びらの重なり具合がお気に入りです。プレゼント等に利用させてもらってます。(梁河)
- ポーチュラカの花言葉は「いつも 元気」。私は「元気だね」と言われるように大きな声で、挨拶をすることを心掛けています。(新井)
- 桜です。淡いピンクの花びらが、ヒラヒラと舞い散る光景がとっても好きです。桜の時期は、遠回りをして帰ります。(阿佐美)
- 交流の家に来て初めてヒマラヤスギの松ぼっくりを見ました。その芸術的なところに衝撃を受けました。(田野崎)
- アロエです。ヨーグルトに入れてよし、火傷に塗ってよし。葉の刺々しさや重なり方も 何故か好きです。(岡)
- 好きな植物は、トマトです。今では、種から育て、近所にも 苗を配布しています。1mmほどの種からトマトがたくさんできたのを見て子どもも驚いていました。(阿左見)
- 好きな植物は万年草です。数種類育てています。セダムともいい、多肉植物の一種、小さな葉っぱに可愛い花も♪(八木)
- 「クリスマスローズ」早春にひっそりと咲く 花という イメージでしたが、ダブルも 増えてきて華やかで多彩な花が魅力です。(大工原)
- 好きな植物は特段ありませんが、北海道でみた向日葵やラベンダー畑は圧巻でしたね。皆さんも一度行って見てください。(穴澤)
- カスミソウが好きです。目立たないけれど、花束には欠かせない存在。周りの花を華やかに見せてくれる、その健気な姿と可憐さには、特別な魅力を感じます。(大濱)

次号は、1月1日発行予定！

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう



## 『チッタスロー』

雨が多かった夏が過ぎ、赤城山にもおいしいものがいっぱいな秋がやってきます。

「NPO法人赤城自然塾」が中心となって進めている赤城山ツーリズムでは、古道の山登りや自然散策、そしてニッチな食べ物などをプログラムとして発信しています。そんな中、今年の春に前橋市の国道353号線以北の南麓地域が、世界30カ国238都市からなるチッタスロー国際連盟に加盟をしました。チッタスローは英語で『スローシティ』と訳され、その本部は前橋市

の友好都市であるイタリアのオルビエート市にあります。

「ゆりのある質の高い生活や食文化、環境に調和した都市の実現」をテーマに、この地域を創造していくことを世界が注目しています。赤城ならではの自然を守りながら、地域の特長と向き合うライフスタイルが支持されることを期待しています。

所長 杉浦 俊之

# カラゴロリ



夢をもちしは  
うらなは  
前を向う  
うらなは  
夢をもちしは  
うらなは

【仲間がいるから  
乗り越えられる！】

## 赤城やまなみチャレンジキャンプ

8月11日(金)～18日(金)7泊8日の日程で「赤城やまなみチャレンジキャンプ」が開催されました。この事業は、仲間と共にテント泊をしながら、赤城山主要七山を踏破することを第一目標としました。それと同時に、今年度はアクティブラーニングの手法を取り入れて主体的・対話的な態度を養ったり、自炊の時間や洗濯の時間を設け、「自分のことは自分です」ことで「してもらおう自分からする自分へ」の転換を図ったりしていきました。「挑戦・協力・感謝」というテーマのもと、山登りやテント生活などに「挑戦」し、自炊をすることで、準備から片付けまで班ごとに行ったり、班で話し合っ1日の生活表を計画したりして、互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」する大切さを学んでいきました。また、自分一人ではできない時には仲間と協力して、周りの人たちの支えによって、今の自分たちがいるということにも気づかされるキャンプとなり、自ずと「感謝」の気持ちも芽生えていきました。

7泊8日のキャンプを通して、目の前に立ちほだかる一つ一つの壁を乗り越えることで、着実にたくましく成長していく姿には、大変頼もしさも感じました。このキャンプで学んだことを今後の生活にも生かして、一回りも二回りも大きく成長していくことを、心より願っております。

(文：小倉)



雨の日も多くありましたが、協力し支えあいながら見事赤城山を制覇しました！



### これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

#### ■秋のアウトドアフェスタ

10月22日(日)  
10:00(開場9:30)～15:00

アウトドアに興味があるけど、なかなか体験の機会がない…。そんな方々に、様々なアウトドア体験をしていただけます。火を起こしたり、芝生のフィールドで思いっきり遊んだり、創作活動もできます。子どもから大人まで楽しめるイベントです。入場無料ですので、ぜひご家族やお友達とお越しください。



#### ■自然体験活動上級指導者養成研修会(NEALインストラクター)

2018年1月9日(火)～12日(金)  
3泊4日

全国体験活動連絡協議会(NEAL)が認定する指導者カリキュラムで、自然体験活動の知識や技術について学びます。  
※NEALリーダー資格保持者が対象です。



#### ■リスクマネジメントセミナー

2018年1月15日(月)～16日(火)  
1泊2日

体験活動を提供する際に必要となる「リスクマネジメント」について専門的に学ぶための研修です。講義やワークを通して、体験活動の中に潜むリスクと、その対処法をしっかりと学びます。



【学びと出会いの3日間】

## 教員免許状更新講習

7月27日(木)～29日(土)には「国立赤城青少年交流の家」で、8月21日(月)～23日(水)には「埼玉県立大滝げんきプラザ」にて、2泊3日の教員免許状更新講習を開催しました。

自然体験活動の講義・演習を中心に講習が行われました。特に仲間づくりのレクリエーションでは、「プロジェクトアドベンチャー」の手法を用いたプログラムを体験し、グループの仲間と協力しながら与えられた課題を解決し、仲間との絆を深めることができました。また、自然体験プログラムでは、五感を使って自然を感じることができました。さらに、野外炊事では、「リスクマネジメント」について学びながら、おいしいカレーライスを作りました。

受講者の方からは、「とても充実した3日間でした」「また次回も参加したい」などの感想をいただきました。

教員免許状更新講習に参加した全員が、1つのチームとしてまとまることのできた3日間でした。この講習で出会った仲間とのつながりをいつまでも大切にしていきたいです。

(文：梁河)



仲間と助け合いながら、ワイヤーから落ちないようにゴールまで渡っていきました。



目隠しをして、仲間に支えられながら、自然物のおいしさや手触りを感じました。

プログラム  
紹介！



## 【ドラム缶ピザ】

「野外炊事といえばカレー作り！」そんな固定概念にとられていませんか？

最近、交流の家でも人気の高いプログラムが、ドラム缶を使ったピザづくりです。

小麦粉から生地をこねて、寝かせた後、自分の好きな大きさ・形に広げます。これが予想以上に力が必要な作業になっています。ですが、手際よくこねればこねるほどモチモチ食感の美味しい生地になります。パプリカやベーコンなどの食材を好みの形に切り分け、コーンやチーズと一緒に自由にトッピングをします。それを温めておいたドラム缶の釜の中に入れて待ちます。焼き上がりは火の加減にもよりますが、3分もたたないうちに完成です。とろけるチーズともちもちの生地に



トッピングの具材も豊富で、オリジナリティに富んだピザが出来上がります。



類っぺたが落ちてしまうかもしれません。そしてなにより、自分で作ったピザは格別でしょう。心もお腹も一杯に。ピザづくりいかがでしょうか。(文：渡邊)

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

## この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員

みはし  
三橋 明彦 さん(凧づくり・新聞紙であそぶ・厚紙ブーメラン)

三橋さんは、「凧づくり」「新聞紙であそぶ」「厚紙ブーメラン」のプログラムの講師として、昨年度から交流の家で活躍していただいています。

普段は、児童クラブ(学童)、公民館や学校などに呼ばれて、ものづくりを教えているそうです。三橋さんは、ものづくりを通して創造的なあそびを目指しています。そんなものづくりの原点は、子ども時代の遊びの経験や、これまでの子ども達との関わりだそうです。「子ども達に、ものづくりを教える中で、素朴なものを面白いもの



ものづくりに熱い情熱を注ぐ三橋さん。イラストやデザインの仕事経験を活かし、素敵な作品を作ってくれます。

## 料金変更のお知らせ

あかぎを  
つかう！

平成30年10月1日より、交流の家の料金が一部変わります。

現在200円ご負担頂いているシーツ等洗濯料が、**300円**に変更となります。皆様により衛生的な寝具をお使いいただくために、シーツの洗濯料金200円分と合わせて、布団や枕等の洗濯料金100円分もご負担頂くこととなりました。

皆様に、より快適に施設をご利用いただくために活用してまいりますので、何卒ご理解のほどよろしく願いいたします。

(文：手島)



## ～表紙絵の植物紹介～

【ネズミモチ】「ネズミモチ」は、モクセイ科の植物です。写真のように花は白色ですが、実は黒紫に熟します。葉がモチノキに似ていて、果実がネズミのフンに似ていることからこのように呼ばれています。「ネズミのフン」と説明しても最近ではネズミを見かけないので説明に苦労する」とある大学の研究室のホームページに記載がありました。交流の家でもネズミは見かけませんが、運が良ければキジヤムササビなど普段は見かけない生き物たちを見ることが出来ます。活動の合間に、こうした生き物たちを探すのも楽しいかもしれませんね。

(文：池守)



## 赤城山ツーリズム 第7回

「『なにもない』がある」

まゆずみ  
NPO法人まえばし農学舎 黛 若葉さん

群馬県の人に、自分の住む場所に何がある？と聞くと「何もない」という返答が多い気がします。県外の方をどこに連れて行ったらいいの？お土産は何を買えばいいの？そんな状況で人を呼ぶことは難しい。このお店の店主は変わるとか、おじいちゃん、おばあちゃんが作るジャムがすごく美味しいとか、この角度から見る赤城山が最高だとか、棚田に咲く彼岸花がこの時期見頃とか。この場所は、毎年地域の人たちが植える向日葵や秋桜が綺麗だとか、何でもいいのです。自分たちが、普段当たり前でまるで何もないように思える物や風景も、実は最高の観光資源です。まずは、それぞれの地域に埋もれてしまっている魅力を探し出すこと、地元の私たちがその資源を宝と思うこと、そこから地域主体の新たなまちづくりがスタートします。

私がこの地域の観光資源を1つ挙げるとするならば、赤城山頂、覚満淵の隣で冬でも土日営業している蕎麦屋「風の庵(かぜのいおり)」。2年前に他界した旦那さんの味を守り続ける女将さんの存在は、冬の赤城山を暖めています。

